

令和2年度 弥富市総合教育会議

1. 日 時 令和3年3月3日（水）午後3時00分～
2. 場 所 弥富市役所 大会議室
3. 出席者 市 長 安藤 正 明 副 市 長 村 瀬 美 樹
教育委員会
教育長 奥 山 巧 教育長職務代理者 阿 部 康 治
委 員 浅 野 美 喜 子 委 員 鈴 木 由 美
委 員 矢 野 浩 一
4. 説明者 教育部長 山下 正己 ・ 教育部次長 加藤 優子 ・
学校教育課課長 渡邊 一弘 ・ 生涯学習課長兼総合社会教育センター館
長兼十四山スポーツセンター館長兼南部コミュニティセンター所長兼白鳥コ
ミュニティセンター所長兼十四山公民館長 中野 修 ・
図書館長 服部朋夫 ・ 学校教育課主幹 藤澤太一
5. 議事
 - (1) 令和3年度教育委員会所管の公共施設に関する事業(案)について
 - (2) いじめ・不登校の現状について
 - (3) 令和3年度学校行事について
6. 意見交換について
7. その他

.....○.....

1. 開会

○ 市長より 皆さんこんにちは。市長の安藤正明です。委員の皆さんには、総合教育会議に、ご多忙の中ご出席いただき誠にありがとうございます。また、日頃より本市の教育行政に対しまして、ひとかたならぬご尽力を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げます。さて、3月を迎え学校では、一年間の総まとめをする時期、卒業の時期と

なりました。一年前の今頃は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、学校の臨時休業という、これまで経験したことのない緊張した事態となり、卒業式も規模を縮小しての開催となりましたことを思い出します。学校再開後も、先生方には新型コロナウイルス感染症防止対策に労力を注いでいただき、おかげさまで、学校でのクラスターが発生することなく、また、多くの制約がある中で、子供たちが充実した学校生活を送られたことと思います。本日の会議は、本市の教育の現状と課題、そして、将来ビジョンがテーマとなります。子供たちの将来に向けて、有意義な意見交換の場となりますことをお願い申し上げ挨拶といたします。余談にはなりますが、本日は3月3日桃の節句でございます。また、金魚の日でもあります。この金魚の日は、平成2年、日本鑑賞魚協会によって制定されました。では誰が金魚の日を提唱したのか。それは、江戸時代にひな祭りの際に、ひな人形と金魚と一緒に飾る習慣があったことから、弥富金魚組合の宇宙金魚でも有名な、三輪守夫さんが提唱したと言われております。そういったこともあり弥富の金魚は引き続き支援をしていかなければならないなと思っておるところでございます。また本日、朝のテレビ「ドデスカ！」ですが、7時20分ちょっと過ぎごろから弥富の紹介がございまして、市民へのインタビューの中で「弥富といえば？」というように、皆さん一同に「金魚」「金魚」ということで、金魚しか知らないというように、ちょっと寂しいことであるわけではございますけれど、やはり金魚というのは弥富、イコール弥富金魚、金魚は弥富ということで本当に認知されているのだなと思って。ちょっと安心はするものの少し寂しい気持ちもあったわけではございますが。そんなことがきょうテレビのほうでもやっておりました。桃の節句が過ぎまして一日一日と暖かくなってまいりますが、残念ながら新型コロナウイルス、ワクチン接種のほう少し遅れるようではございますものですから、教育委員の皆様方におかれましてはワクチン接種が始まるまでもう少し新しい生活様式の中でコロナ対策をとっていただきたいなというお願いでございます。それでは本日の会議でございますが、本市の教育の現状と課題、そしてまた将来ビジョンがテーマとなります。子供たちの将来に向けて有意義な意見交換の会となることをお願い申し上げまして、ごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

.....○.....

5. 議題

- 学校教育課長より ありがとうございました。それではここから議事の進行につきましては本会議の招集者であります、安藤市長のほうにお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。
- 市長より それでは議題に入りますが着座にて失礼をいたします。早速ですが議題の（１）としまして、令和３年度教育委員会所管の公共施設に関する事業（案）について事務局より説明願います。
- 部長より 失礼いたします。教育部長の山下でございます。それでは令和３年度の教育委員会所管の公共施設整備につきまして、安全確保や環境改善、適切な維持管理のために予算計上をし、実施をしてまいりたいと考えております。主なものとして、歴史民俗資料館の令和４年４月オープンに向けた図書館棟の改修工事や備品購入、展示パネル作成などを行います。また図書館棟２階部分に市民団体の作品展示ギャラリーや来館者等に利用していただくラウンジを整備をいたします。生涯学習関係施設では、市民プールの解体工事や、総合体育館アリーナの吊り天井撤去と照明のＬＥＤ化を行うため設計委託を行います。学校関係につきましては弥生小学校長寿命化工事のために現在の劣化状況等を把握するための調査委託と長寿命化工事の設計委託を行います。また各小中学校の修繕工事等につきましては各校と調整いたしましたものを行わせていただきます。公共施設再配置計画等における小規模校の学習環境の整備につきましては、本年はコロナ禍においてＰＴＡ総会などは開催されず、保護者の皆さんにご意見をうかがうことができませんでした。今後はまず保護者の皆さんと子供たちの学習環境整備に向け意見交換情報共有をしてまいりたいと考えております。以上でございます。
- 市長より ありがとうございます。ただいま山下部長から令和３年度の学校関係の公共施設ですが、それに関する説明と、またちょっといろんなことで制約を受けて子供たちのことが聞けないということもあるものですから、そのことに対してご意見ご質問等がございましたらよろしく願いいたします。
- 教育長より 部長がいま言いましたように、今年の弥富市の子供の出生がすごく少ないと聞いておりました。ますます少子化が拍車がかかるなと思います。それに

伴って子供の教育環境というのが問題になってくると思います。そういう将来的な統計とも加味しながら令和元年度に教育環境に関するアンケートを執り行いましたが、これからのよりよい教育環境の在り方について教育委員会として特に子供の教育を受けさせる主体である保護者の意見を参照にするためにですね、コロナが十分安心な状況になった折にですね、特に小規模校のPTA役員等と意見交換しながら、意見の集約を図っていききたいなということを思っております。そのときはどうか、教育委員さんも一緒になって話し合いに参加してもらおうとありがたいなと思っています。以上です。

- 市長より ありがとうございます。今年に入りまして1月2月の出生のほうですけど、子供が生まれたということですけど、例年ですと大体1ヶ月間に30人くらい弥富市では赤ちゃんが誕生、生まれております。と、ということにおきまして、1月2月は15名ずつということで半分くらいの方になってだいぶ、ちょっとがっくりというか、心配しているんですが、これが6年後7年後にやはり小規模学級どころじゃない、そんな騒ぎになってくるのではないかと思うもんですから、そのころを見据えてちょっと市のほうの再配置等々を進めていかなければならないのかなと思いますものですから、ご意見ありましたら教育委員会の皆様、よろしく願います。よろしいですかね。また後から気が付いたりしましたら、ご意見を願います。それでは次に進めさせていただきます。続きましていじめ不登校の現状について事務局より説明を願います。

- 主幹より はい、では失礼いたします。学校教育課主幹の藤澤でございます。着座にて失礼させていただきます。別綴じの資料を用意させていただきました。令和2年度いじめ問題専門委員会資料というふうに書かれているものです。今回は弥富市総合教育会議ではございますが、実は過日行う予定であったいじめ問題専門委員会で公表し、見ていただこうと思っていた資料を運用させていただこうと思い、こちらに用意させていただきました。いじめ不登校の現状ということで、まずはいじめのほうから。こちらは令和2年度のいじめの状況でございます。大きな1番に月別生徒指導資料報告におけるいじめ事案進行管理表よりということで、いじめの本年度の状況が概数でまとめられております。先にちょっと見ていただきたい資料がございますが、実は弥富市においては市内の管内の小中学校のいじめの状況を把握

するために、このレジメでいいますと2番、いじめ事案指導進行管理表というものを活用しております。添付資料が2枚あとに載っております。まずは依頼文章。その次にエクセルの表計算シートで作られている各学校の事例を挙げてくるシートというのがございます。戻っていただいて、こちらのほうで各月ごとにつぶさに認知したいじめを挙げていってもらって報告をしていただいているというところがございます。それによって挙げられた件数なんですけれど、元の1番に戻っていただくと、昨年度の10月と本年度の12月、ちょっと今年は令和3年に変わりましたのでわかりにくいんですけど、令和元年度の10月と令和2年の10月ということで、その時点で一番拾える最新のデータを拾っております。比較する月がずれているのは、今年コロナの影響で始業が2ヶ月遅れたものですので、始業から7ヶ月時点のところでは拾ったデータとなっております。見ていただくと小学校においては12月末の時点で、8校中8校でいじめの認知がございました。累計の認知件数は66。カッコ書きの中に注目していただきたい部分があるんですけど、令和2年度の新規としては49。越年ということで、年をまたいでいる、つまり例えば小学校3年生であった子供にあった事例が4年生も引き続いているという事例が17件。令和2年度と比較しますと、令和2年度は同じ時点で新規が77に比べて、実は今年度については若干いじめの認知件数は下がっているという状況でした。同じように見ていただくと中学校ですが、令和2年度の12月末時点では3校中3校。累計の認知件数は26で新規は10。比較する令和元年度の10月の時点を見ていただくと新規11。中学校においてはいじめの認知件数はそうかわらないと。こういったような状況が見えております。ただ私もここに着任して2年、それまでの資料を前任者から、その前の前の前任者から引き継いできている様子を見てみると、年々いじめの認知件数自体は増加傾向です。ただ認知件数が多くなると一概に悪いのかというと、そうでもなくて、私どもが定義しているいじめというのはちょっとした相手をからかうような声かけも含めておりますし、もちろん対人関係での暴力関係があっては、もちろんいけないのですが、その予兆としてちょっとした、このちょっとしたというのがポイントなのですが、この気になる人間関係というものを捉えているつもりでございます。ただそこにもちょっと問題があるのでまたそれはあとで話をさせていただきますが、いずれにしてもいじめの状況をつ

ぶさに捉えて、それに対して適宜対応をしていく。実は、いじめが元で不登校あるいはもっと重い話になると生命を脅かすような話になると、いじめの重大事態として捉え、市のほうで調査委員会を設置しなくちゃなりません。そういった意味でいうと、本年度はいじめの重大事態は、このいまある資料からは見えてこないんですけれどもゼロ件でした。そう意味でいじめにつながるような行為をできるだけ早期に捉えて教員が適切な指導を行っているというのが、いま弥富の現状だと思っております。今後に向けての部分に少しふれさせていただくんですけど、少し気になる所と、先ほど申し上げた件が実はいじめにつながるかどうかという捉えというものが当然ながら人によって価値観、価値基準によって違ったりする。この部分がちょっと私の中で懸念している材料でもあります。こちらに資料は用意しておりませんが、毎月毎のいじめの件数を計上したものというのを定例の教育委員会の中で開示し、教育委員の先生方には見ていただいております。その資料を見ていくと、認知の数が多い学校と少ない学校、これは児童生徒数に関わらず圧倒的に多い学校と少ない学校の差というのが歴然として見えてくる部分がございます。それを指してよいか悪いかというのは微妙な部分はあるんですけど、ただ捉え方の違いなのか、あるいはかかわったことで解消したから挙げてないか。この辺り、なかなか言葉や文章で通知してもうまく伝わっていかない部分があります。私としてもこの立場をお借りして、また年度始めに向けて、そのあたり、各校における生徒指導担当などと話をしながら、できるだけ多くの機会にいろんな情報を拾い上げて計上し、適切な人間関係を構築してほしいということをもたまた伝えていきたいというふうに考えております。弥富市のいじめの現状は以上でございます。続きまして不登校の現状についても述べさせていただきます。資料4枚ほどはねていただくと、不登校の状況についてというものがございます。先に申し訳ございませんでした。その次に分析を持ちているんですが、教育委員会の事務局への起案した際に、適宜修正をいただいた部分を直す前のものを載せてしまいましたのでお許しください。こちらについて説明をさせていただきます。1つ戻っていただいて。不登校児童の状況については、いまそちらに提示させていただいた通りでございます。一番それぞれの年度の右端を見ていただくと、その年度における不登校とされた子供たちの総合計数が載っております。不登校については調査上の定義といいますか不登校として定

義づけるのに日数というのがございまして、年間30日以上欠席した生徒を不登校として取り上げてございます。なおカッコ内で示した数がそのうちさらに90日を超える欠席をした生徒。不登校で90日となると、実は学校の年間の開業日数が約200日なりますので、年間のうちの半分を欠席した生徒となります。つまり本当の長期欠席者。見ていただきますと、平成30年度は小学校においては19人、うち5名が長期欠席になる子。中学校は52の27。下に移っていきます。令和元年度は小学校15、中学校は54。令和2年度、今年、これはまだ2月末現在です。ただ先に申し上げておきますと、これ以上増えそうにないような状況というのはお伝えさせていただいて、小学校で25、中学校で52。私として気になるのは小学校が若干増えつつあるということ。実は小学生の数がこの3年間で約100名減っているんです。平成30年度に小学校全体数が2379人に対して、今年は今現在2279。100人減っているけれど、人数は6人なんですけれど、やっぱり出現率が増えているということ。中学生は一方で52、54、52ということで横ばいに見えるんですけど、カッコ内の長期欠席者、90日以上が増えている。39。この辺が気になっています。次のページをごらんください。すみません。修正が直ってない部分で申し訳ないんですけど。小中学生ともに、それでも全体として児童生徒数が減っているのに対して、横ばいもしくは増えつつということは、不登校者数の全体数は増加傾向にあるなど。出現率もちよっと増えつつあるなどというふうになってきております。そして度々定例の教育委員会や市長さんにも話をしている、不登校から少しでも社会復帰を促すという意味でいま適応支援指導室アクティブというものを鍋田支所の上に設置してございます。そちらに通うことによって、実は学校のいわゆる通知表や要録という公簿上は出席というふうに扱いになっている子がやっぱり年々増えていっているという傾向があります。ただこの統計上はアクティブに行っている子は、申し訳ないですけども不登校のほうで欠席として計上させてもらっています。やっぱりこの辺、実態として学校に行っているのかそうでないのか明確にしたかったので。本人にとっては生涯の履歴も含めてなんですけれども、表向き出席したことに、アクティブに行っても出席したことになっていますが、こちらの計上としては学校に行けてるか行けてないかということで計上していますので、アクティブだけに行っている子については欠席という扱いにしています。

いずれにしても不登校者が増えつつあるというのが現状で大変気になっております。じゃ、各学校がそれに対して何も対策していないかということそうではなくて、本当に多忙な業務の中で家庭と密に連絡を取って何とか学校復帰、あるいは昨今の現状から言いますと学校復帰とまではいかななくても社会復帰できるような、人とのかかわりが持てるような働きかけというのは行っております。今後もそのあたりを念頭において、子供たちが社会に適応できるための土壌といいますか、学校環境などを整えていきたいなと思ってます。今後の取り組みについてもいま私が述べさせていただいたことをまとめさせていただいておりますが、アクティブの運営の仕方。文部科学省のほうが提唱している多様な学びの機会というものを提供するために、やはりいろいろ悩みどころはあるんですけども、アクティブの運営の仕方についても今後また考えていかないかんなどという時期に差し掛かっているというのが現状でございます。もう1枚はねていただくと、これは本当に直近、令和3年2月末時点での、個人情報になります。いま弥富市管内の小中学校に通う子供たちの欠席状況でございます。いつもの定例教育委員会のほうでは細かに説明させていただきますので、少しだけ付け加えさせていただきますと、左から学校名、学年、性別、名前。実際の2月末時点の欠席数。不登校が先ほど定義したように30日以上、90日以上というふうになっていましたので、その30日、90日を超えたものというのがわかるように記載されております。見ていただくと、備考1が見ていただいた通りなんですけれど、昨年度まで不登校として計上がなかった子は「計上なし」です。ここに数字が入っている子は昨年度も不登校。見ていただくと小学生は今年不登校になった子は比較的今年なってしまったという現状。一方中学校は先ほどの分析にもあったように、中一ギャップなんでしょうか、その以降なんでしょうか、前年度不登校でいた子はやっぱり不登校になっているかな。青色でアクティブに入級している子というのがおります。実は不登校になっている子のうちの、中学校でいうと半分までいかないですかね、3分の1くらいはアクティブに入級している。という形でなんとか社会復帰を目指しているということでございます。以上で弥富市のいじめと不登校の現状についてご説明を申し上げます。ありがとうございました。

- 市長より はい、ありがとうございました。ただいま藤澤主幹のほうから資料に

つきまして丁寧な説明があったわけですが、これにつきましてご意見ご質問がございましたらお願いいたします。

- 副市長より 小学校の不登校の子が、やはり中学校に入るとそのまま不登校になるという傾向は、想像するとそのような気がするんですけども現実はどうなんでしょう。
- 主幹より はい、これにつきましても、年度によっても様子は違って来るんですけど、やはり一度不登校になってしまうと、なかなか中学校で「じゃ」というふうに足が向くということは少ないかなというふうに私は認識しております。さっきの資料からも今年、特にまた不登校になっている小学生が多いですので、来年スタートのところでスムーズに行けるといいんですけども。どうしても不登校になると一番子供たちにとって苦しくなってくるのがやっぱり学習面での遅れなんですよ。当然、市長さん、副市長さんに言うまでもなく、学習というのは継続的な積み重ねの上にできているもので、いったんそこで途絶えてしまうと、なかなかすっと入るのは難しいですね。そういった意味で、先ほど申し上げたアクティブなどは、学校という施設でないんですけど、学習の機会を保障するという意味では個別に対応はできる。ただ学校じゃないもので、この辺のいわゆる適応指導教室みたいなところを盛り上げていくというのもまたちょっと違うなとは思いつつも、でもそういうところがないといったん不登校になった子供たちの行き場がなかなか苦しいという、その辺がすごい微妙なところですね。すみません。ちょっと説明がずれてしまったかもしれませんが、以上です。
- 副市長より もう一つよろしいでしょうか。ここの小学校の区分を見ますと、小規模校は少なく、大きい学校の小学生の子が不登校、小学生を見ているということは、家庭環境がそういう地区の子は問題があって、なっているという分析があるのか、それともやっぱり大規模校になると目が、目が届かんといっちゃいかんですけども、なかなかかわりがうまくいかないから不登校になってしまう事案があるのか、その辺はどういうもんなんでしょう。
- 主幹より はい、実はいま副市長さんに言われて、その資料を持ってくればと思った部分があってですね。いま備考4のほうに中学校だけは出身の小学校のほうを記載させていただいているんですね。実は出現率の話になってくると、確かに日の

出小学校は大規模校です。桜小学校も弥富中学校の中では大規模校なんですが、実は1年生においては大藤小が多いんですね。大藤小のいわゆる、またデータを、いまないものと言ってもいけないんですけど、見ると、大藤小出身が20に対して5という数が出ているのに対して日の出小は？という話になってくるんです。実は、全体で見て少し内々でとった集計によると、一概に大規模校からたくさんではなくて、逆にいまのところ私の今年についての分析でいうと小規模校の子のほうが大規模校のほうに揉まれ慣れてないということもあってやや多いのかなというふうに見えているんです。

- 部長より　　いま、副市長が言われてみえているのは小学校の話をしてみえるんで。
- 副市長より　　ええ、小学校のこと。中学校は行くと要は小さい学校の子は揉まれとらんもんだから、いきなり大きい池に入ってしまうと泳ぎ場所がわからなくなってしまうって行けなくなるという意味ですよ。
- 主幹より　　すみません。私取り違えてましたかね。大きい学校のほうが不登校の子が多いという話ですかね。
- 副市長より　　いや、そういうふうに見えてしまうんですけども、いかがでしょうか。それは家庭的な問題が多い子が都市部に多いと言っちゃなんですけども。
- 主幹より　　そうですね。そこは、そう、実際そういう部分がありますね。駅周辺のという言い方は語弊があるかもしれませんが、いろんな家庭がたくさん混在している地区のほうが不登校が出やすいという、小学校は事実あるかなど。見ていただいた通り弥生小と日の出小と桜小と。ほかの学校は出てませんから。逆に中学校に入ると、という話が先ほどの私の話で。ごめんなさい。私の捉え違いでした。すみません。
- 市長より　　小学校の不登校の子供たちというのは学校に来てないというわけですけど、家にいるわけですよ。
- 主幹より　　家にいる・・・。
- 市長より　　いる、であろうと思われるんですけども、そういうときに保護者の方って、だれかみえるんですかね。
- 主幹より　　これは全部の実態をつかみ切れてないんですけど、想像でものをいうのはちょっとよくないと思いますが、昨今の事情からすると家に誰もいなくて子

供だけでいる可能性というのは否めないかなと思っています。

- 市長より 低学年の子なんかは本当に心配ですよ。
- 主幹より そうですよ。そうなんです。
- 市長より 実はきのうですが、アクティブのほうへ私、遅くなったんですが行ってまいりまして、私の印象とずいぶん違っておりました。子供たちがもう少し暗いのかなと、下を向いているのかなと思ったら全然そんなことはなくて、やはり子供でした。元気に友達と、勉強をやるの中でもワイワイガヤガヤやりながら。よいとはあまり言えないですけど、よい環境ではないかなと。不登校の子供たちにとってはよい環境だかなと思いました。そのアクティブへ繋がればいいんですけどなかなかそこへ入るきっかけが難しいのかなと思いますね。もっと細かくアクティブがあればよいと思うんですが、それはそれでまたいろいろな問題がありますし、子供にとってもあまりよくない。どれくらいの人数が適正かというのはちょっとわからない、アクティブに対しては。あまり少ないのもよくないのかな。年代、世代を超えてというのがある程度あればお兄ちゃんお姉ちゃんということでよいのかなと。ということで見ていたりしてたんですけど。その辺、藤澤先生はどう思われますかね。
- 主幹より そうですね。本当に市長さんがいま言われたところで、本当に微妙なところで、アクティブのようないわゆる適応指導教室、うちでは適応支援指導室というんですけども、適正な数というのがちょっと私も正直わからない部分がありまして、どれくらいがよいとか悪いとか。もちろん箱の、スペースの問題ももちろんあります。それからどれくらいの年齢層がというのも、ちょっとこれわからない部分があります。いま話が、また論点がずれちゃうかもしれませんが、今現状は今の室長先生から以前の室長先生方が築き上げてきた体制というか雰囲気でもって、子供たちあそこに行くと、実はあの子たちも学校に行くと沈んでいるんですよ。想像できるかと思うんですけど。でもあそこが生きる場所となって生き生きとやっている。逆に言うとあそこがある意味、縛りを学校ほどはないんですね。校則というものがなく、子供たちの自主性に任せているということ、という部分が大きいので、ああいうふうにのびのびしている。一方で適正の話になってくるんですけど、あそこはあそこで1個コミュニティができて、市長さんがごらんになったように明るく

楽しい雰囲気になってるんですが、実は確かに入級の手続きはとっているんですけど、この中にも何人かはいったん踏みかけたんだけどあの雰囲気に入れずにやっぱり家に戻っちゃったって子もいるんですね。だからというわけでもないです。それからもう1個は、あそこは弥富中学校の学区としてはまだいいんですけども、弥富北中学校や十四山中学校からするとどうしても遠いということもあってなかなかそのあたりが。だからと言って、北のほうに簡単に施設が作れるのかという話にもなってくるので、話をするとまとまりがなくて申し訳ないんですけど、いまの人数からすると適正であるのかなと思う反面、室長さん方の職員の話からすると、やっぱりちょっと増えつつあるとここで結局離れていくということもするとスペース的な部分なんでしょうか、ちょっと苦しいかなということはおっしゃいました。これ現状だと思います。

- 市長より はい、ありがとうございます。いずれにしましても小学校、中学校は義務教育ですので、なんらかのかかわりが市としても持てるわけですね。そこを出ちゃいますと、本当にどうすることも市としてはできない、そんな状態になってしまいますものですから、なんとか中3までの間に少しでも社会に出れるような状態にしてあげるのが市としての責務ではないかなと思っておるのですから、先生方にも教育委員の皆さんにも引き続きご尽力賜りますようよろしくお願い申し上げます。ほかにご意見がございましたら。よろしいですか。では次に移らせていただきます。令和3年度の学校行事について事務局より説明を願います。
- 学校教育課長より はい、失礼いたします。学校行事についてです。簡単に説明させていただきます。まず令和3年度ですけれども、入学式がすぐ4月に控えているわけですけれども、4月6日小学校の入学式、4月7日は中学校の入学式でございます。どちらもこれまで同様ですが来賓の出席等はございません。小学校の運動会ですけれども、5月13日の白鳥小学校を始めにしまして5月21日までの間に全校行われる予定です。内容につきましては本年度コロナ禍で対応した通りですね、本年度同様、平日半日日程給食を食べての帰りということで、来賓の出席の依頼はしておりません。続きまして本年度コロナ感染拡大防止の観点からですね、日帰りで行われました修学旅行についてです。中学校の修学旅行については3校とも5月に二泊三日の実施の予定でございます。小学校は秋、10月から11月にかけて一

泊二日の実施が予定をされております。また本年度実施を見送りしました広島研修ですね、これにつきましては11月9日から弥富中学校を始めに北中学校、十四山中学校の順番で12日までの間で行われます。最後に卒業式についてですが、3月3日中学校の卒業式、同月18日小学校の卒業式ということで、1年間の主な学校行事が組まれております。以上でございます。

- 市長より はい、ありがとうございました。ただいま事務局から令和3年度の学校行事について説明がありました。これにつきまして何か教育委員の皆様、どうでしょうか。
- 教育長職務代理者より はい、今年度はコロナの影響で学校行事がなくなったり、または短縮してやったりとかあったんですが、もし来年度少しでもコロナが収まってくればまた学校の先生たちは真面目ですから、今までやっていたことをまたやって、さらに働き方改革で労働時間を減らそうと言っているんだけど、言われることとやるのがなかなかうまくマッチしてないということになってくんじゃないかなと思うんだわね。だからやっぱり教育委員会や市のほうから行事はもっと精選しましょうとか、学校のほうに言ってあげないと、なかなか先生たちだけでは行事を無くすというのは難しいんじゃないかなと思うので、教育委員会のほうもやっぱり現場のほうにそうやって勧めていけたらなと思う。
- 教育長より おっしゃる通りでございます。先生いうのはやっぱり一生懸命やって、そしてすごい出来上がりができる子供と一緒に、また親もそれを喜んで、その感激がもうたまらんですわね。そうすると、その味わっとることが、またコロナが終わったら同じようなことになって結局働き方改革とまた真逆になって、今度は自分の健康を蝕んでという悪循環になると思いますので、いま阿部委員が言ったようにこちらから「だめだよ、だめだよ」というふうに、スピード制限をかけるようなことを働きかけてあげないと、元に戻ってしまうんだと。そしてブラックだということで教員志望の学生さんがいなくなって、結局優秀な先生が採れずに質の低下を招いて、ひいては子供の教育の質の低下にいつてしまうというようなことになりますので、本当に心してやっていきたいなというふうに思っております。
- 市長より ま、学校行事につきましては市といたしましても教育現場を中心にそれは考えていきたいと思っております。またご相談をさせていただきたいと思うん

ですが、子供たちにとりましては学校生活は一生に一回。思い出作りでもあるわけ
でございますものですから、できる限りやらせてあげたいというのもあるんですが、
教員が多忙と相反することがあるかと思っております。これをうまくマッチン
グさせてやっていけるかなと思っておりますし、またいろんな行事に対しましてコ
ロナ禍で規模縮小とかいろいろなことが変わってまいりました。これは今後コロナ
が収まりましても続けていってよいものもあるかと思うものですから、例えば来賓
の問題にしても、行事による来賓の問題にしても、本当に少なく少なくして本来の
行事のほうを優先して時間をとってやってもらうのが本来の姿かなと思うもので
すから、そんなことも改善しながら学校行事のほうも市と教育委員会と一緒になっ
て考えてまいりたいと思います。よろしくお願ひします。ほかにありますか。あり
がとうございました。議題3件の協議、これで終わるわけでございますが、この後
の進行を事務局のほうへお返しをさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

.....○.....

6. 意見交換について

- 学校教育課長より ありがとうございました。それでは次第のほう進めまして、
4ですね。意見交換のほうに移りたいと思います。広く意見を交換していただき
たいと思います。せっかくの機会です。委員の皆様中心に意見交換のほうよろしくお
願ひします。
- 市長より ちょっと最初の私の余談の話の続きなんですけれど、きょうテレビの
ほうで学校の給食でご飯が温かいというのが放送なされまして、炊飯器でご飯が出
てくるというのがほかの学校ではあまりないみたいな取り上げられ方をしており
まして、大変よいPRになったのではないかなと。自校給食ということで。温かい
ご飯が食べられるということ。なかなか今どきはないんですかね、ほかの学校では。
私は当たり前だと思っただけなんですけれど。そんなことも取り上げられておりまし
たもんですから、報告をさせていただきます。
- 教育長より 栄南、大藤、十東、十西、十中ですね。

- 副市長より 一クラスずつご飯を。
- 教育長より 一クラスずつですね。ガスの炊飯器がどんどきて。
- 副市長より 教室へ持ってきてそれでしゃもじでよそう。
- 教育長より ガスが美味しいんだな、あれ。
- 副市長より ガスが美味しいのは火力が強いから。
- 教育長職務代理者より 普通はプラスチックの容器に入っている。保温になっているんだけど、やっぱり炊飯器と全然イメージ違う。
- 副市長より 普通のほかの学校は発泡スチロールの。
- 教育長より そうそう。パン屋さんが炊いたやつ、発泡スチロールでどんど来てやるんですけど。
- 教育長職務代理者より 入れ替えたのと、入れ替えずに炊飯器のままというのはやっぱり温かさとか。
- 教育長より ご飯、立っ取るもんね。
- 市長より それはなかなかよいPRになったんだなと。
- 副市長より じゃ20クラスあったら炊飯器が20個ある？
- 教育長より ま、みんな小さいんで。
- 副市長より あー1学年1つ。じゃ、6つとか、多くても10個とか。
- 教育長より あれ、ご飯も弥富のご飯じゃないの？
- 学校教育課長より だいぶん、この前、一般質問もあったんですけど。学校給食会を通しては購入をしているんですけども、今度学校給食会が経済連にお願いし、経済連のほうからこちらの農協のほうに来るそうで、結局海部の農協に注文がくると7割くらいが弥富の米だということで。大部分が弥富の米だと思います。
- 教育長より 美味しいはずだわな。
- 市長より それは、栄南、大藤、十四山もそうですけれども、いつも食べておる家で食べておるご飯が美味しいもんですから、学校で出てくるのがまずいと怒りますもんね。
- 教育長より わかると思います。
- 市長より それはわかりますよね。毎日食べとるもんで比べちゃいますもんね。
- 教育長より それでも美味しいと思うんだけどね。

- 市長より 「美味しい。美味しい」と言って、そういう映像でしたからよかったなと思っております。
- 教育長より それじゃ、私のほうから。さきほど不登校の問題でありました、多様な学習の場ということで、今年は岐阜県で適応指導教室をそのまま学校にしちゃったというのがありますね。あれは新しい方法だということで、その手腕を学校でやったほうがなあと思います。もう一つ、気になっとるニュースがありまして。コロナ、2020年で小中高生の自殺が479人と。普段、330人くらいで1.5倍くらいになっとるんですよね。ほとんど原因は進路だとか学業不振、親子不和、家庭不和、この3大。進路だとか学業不振というのはこれは不安なんだわね。先行き不安ということで。なんでこんな多いのかと、この先というか、自分でも考えたんですけれども。コロナで密になっちゃいかんと、群れるな、たむろするな、近づくなということで。2ヶ月の休業もあったし、非常に孤独になったと思うんですよね。孤立したとか、孤独だとか。そして家に2ヶ月、3ヶ月くらいずっとおって、家庭が不和だったら余計に悲惨ですわね。学校が逃げ場所になっとったんが、逃げ場所がなくなってというようなことでね。それですごい増えたんじゃないかなということを思います。やっぱり、アクティブに通っていたら人間的なつながりができるとということ。やっぱり孤独だとか孤立というのが一番やっぱり環境には、子供の環境にはよくない。そしてその孤独、孤立は実は先ほど市長さんも言われましたように、副市長さんも推奨されましたように、家庭も地域から孤立、孤独化してないかということですね。虐待の疑いのある家庭を見ると、必ず地区から孤立してますね。だからそういう意味ではコミュニティの大切さというのもここの子供の教育にかかわってくるような気がしますけれども、皆さんどう思われるでしょうかね。
- 市長より 岐阜県の取り組みですが、本当に私もびっくりしまして。空いた学校でしょうね。指導教室をまるまる一棟取得してしまったというと、どれくらいいま生徒が通っているのかわからないんですが、きのう聞いた話では、成績のことがちょっと気になったもんですから、中学生の成績、「1、2、3、4、5」ですかね、つくんですけど。すべて皆さん、「1」だということで、なったわけですけど、その「1」ですと、次のステップへいくときに大変厳しいわけ。いろんな制約がでてくるわけですし。果たしてそこでずっとおって、その成績で次へと行ったときに、

本人が一番ショックを受けるのか、後悔するのかわかりませんが、そこで1つまた挫折があるかもしれないものですから、その辺のことをよく、アクティブへ通う子供たちにも理解してもらっておかないと、ちょっと将来が不安かなと思いましたね、正直。それを学校でやっちゃうとどうなっちゃうのかなと。そういう子供たちに行き先があるのかどうか。

- 教育長より 公立でも私立の高校でも当日の成績と評定ということで合否を決めるんですけども、学校に行かなければ学校での活動なしということで、評定は「1」が付いてしまうんですわね。通知表にはなにもつかないんですけど、学籍簿には「1」が付いてしまいます。だから普通の私立高校、公立高校というのは閉ざされてくるんですけども、いま幸いに通信、専修学校。専修学校も通信と提携して高校の資格取れますので、いったん挫折したんだけども、そういう通信でもって大卒を目指して大学に入っている子もずいぶんおります。N高校なんていうのはすごくあれでね、早稲田だとか東大にいった子がこの前、出たのかなんとか、そういうようなことを聞きましたけどね。だから多様な機会が義務教育だけでもなくてそっちのほうもあるということはあるがたいと。
- 市長より 国のほうも多様な、と言ってますので。
- 矢野委員より 文科省のほうも、学校に行けない子を学校に戻すということは本当に難しく、それよりもそういう子供たちが行ける場所を提供するというふうの方針を変えているみたいなんです。要するに適応教育を作るとか、教育本位で地域の人も教育に携わるというようなことを勧めているみたいなので、やっぱりもしも弥富市でも適応教室が1個で手狭になったら、もう1か所くらい、津島市でも2つあるので、あってもいいかなと思います。
- 教育長より 東京や大阪はね、その対策に夜間中学をたくさん作っておる。ところが愛知県はなんか消極的でね、夜間中学はあんまり聞かないんですけども。ちょっと増えつつあるんですが、愛知県にね。
- 市長より 夜間中学というのは、昼間はちょっと多いから行けない、夜になると少ないからということで。
- 教育長より 不登校の子も通えるように。そうすると正式な中学ですので、これはなくなりますよね。だからアクティブに行っとるような子が夜間中学に行くよう

になったら、これは普通の正式な文科省の中学ですので。東京や大阪なんかはすごく多いんです。

- 副市長より 一つよろしいですか。私の学生、小中学生のころというのは不登校という同級生がほとんどいなかったもんですから、この表を見るとすごくびっくりするんですけども。これは弥富は平均的な数字なんですか？これが？
- 主幹より 他市町と比べてですか？
- 副市長より ええ。
- 主幹より 実は他市町と比べる資料というものが、いま手元にはないんですけども。県の平均よりは若干多い……。
- 副市長より あ、多いほうですか。
- 主幹より ……かなと思うんですけども。
- 副市長より そうすると、どこでもやはりこれくらいの子供さんたちが不登校になっるとということなんですね。
- 主幹より そうですね。決して、じゃ特に秀でて多いとかそういうふうではないので、先ほど適応指導教室、アクティブのようなものがいろんな地域でたくさん増えつつある現状というのはまさしくその通りなんです。結局ここの地域に限ったことではなくて、日本全国、大げさかもしれませんが、愛知県内どこの地域でもやっぱり一定数の不登校になってしまう子供、それが学業不振なのか家庭での、いわゆる家族間の不和なのか、原因は様々なんですけれどもいます。副市長さんの幼少期のころと、という比較はなんとも言えない部分もあるんですけど、確かに私自身の年代においてもいまの、私も務めてから20数年経つんですけどやっぱり増えているという印象はあります。なかなか、いろんな価値観が芽生えてきて、いろんな情報がメディアとかで、それこそスマホとかもそうなんですけど、なっていて、状況が変わっていくにつれて増えてるなど、これは私の感覚なんですけど、ありますね。これからも、いま阿部先生が言われたように文部科学省がいろいろな教育の機会の確保という部分で考えていかないかん、一方で、自分がちょっと心配しているのはコミュニケーション不足というか、そういう部分を養う場所ってどこなんだろう。アクティブは養えるんですけど。うまく口では説明しにくいというか、いまここで発言していいのかわからないんですけど、微

妙な問題がいっぱいはらんでいるなどは感じております。事実不登校は増えつつあるし、ここだけが特化して多いわけじゃないので、そこは、安心するわけじゃないんですけど、珍しいわけではないんです。はい。

○ 学校教育課長より 他にありますか。浅野さんありますか。よろしいですか。矢野先生、ありますか。この機会になにか。

○ 矢野委員より 時間いいですか。

○ 学校教育課長より いいです。時間、いいです。

○ 矢野委員より 不登校のことですけれども、私発言させていただいておりましたけれども。全国的に増えていることは確かなんですけども、愛知県も増えおりますし。でもこの前聞いた話ですけれども、海部地区はちょっと減つとるそうです。そういう話を聞きました。これは事実かどうかは確認しておりませんが、海部地区だけは減っておるんだよという話を聞きましたけれども。なかなか難しい問題だと思うんですけども、私は人を増やすしかないのかなと思っております。個々に抱えている問題は全然違いますので、すごい大きなものを抱えている子供たちもいますし、学校だけの問題ではないという、家庭環境の大きな問題を抱えている子供たちもおりますし、地域的なものもありますし、人権問題もありますし。だからそういうことを考えると子供たちの居場所を作るというのは、やっぱり丁寧に本当に親身になって面倒をみてやれる人員を一人でも二人でも増やしてやるってのが一番大事かなと思います。子供たちの居場所ということをよく使いますけれども、そういう居場所作りというのはやっぱり人じゃないかなと思います。学校に教員を増やすというのが一番、私はあればありがたいかなと思います。現在、例えば不登校気味の子供が登校しても、授業でちょっと誰も面倒を見る人がいないから悪いけどこの相談室で実習しとってなとか、次の時間は〇〇先生が空いとるからその先生に来てもらうわなと言って、勉強を教えながらその先生はやっぱり事務的な仕事もしていかなければならないから、片手間で面倒を見るというような、そういう形もあるんですよ。そうするとそういう子たちは敏感に受け取りますので、「あ、迷惑かけとるな」と、「申し訳ないな」というそういう思いに、もしなったら、次の日はないですよ。だから本当に優しく丁寧に、舐めるようなそんな優しさというのをやっぱり与えてやれるような、そういう人員配置というのを私は個人的には求めま

す。はやり人じゃないかなというふうに思いますね。なかなか定数が決まっておりますので、難しいことですが、丁寧に優しく時間をかけて面倒を見れる、そういう体制というのを私自身は大事にしたいなというふうに個人的には思っております。

- 学校教育課長より ありがとうございました。どうでしょう。他に意見ございますか。なにか。この機会です。
- 浅野委員より アクティブの話が出ているんですけど、いまの時点で人がいっぱいなんですよね。それを作るだけじゃあないと思うんですけど、子供たちが少しでも出てきて皆で、友達作りというか、そういう場所があったらいいなと思うんですけど。甘やかすとかそういうことではなくて本当に皆で話し合っ、自分たちの学校というか教室なんだという感じで進めていけたらいいかなと思います。さっきの矢野先生の話で、人員を、先生のほうも非常に優しく面倒を見てというか。私は十四山西部小学校の学区にいますけど、そこは本当に10人も人数が、今度の1年生も10人らしいんですけど、もう3クラスになるんです。10人という学年が。でも授業参観なんかで見に行くと、先生の机の周りに半円になって楽しそうに子供たちがやっているんですね。本当に1年から6年までクラス替えも何もなく、うまくいけばいじめとかそういう問題もないかもしれませんが、ちょっと間違えといじめとかそういう問題になっちゃうので、そこを何とかしてあげたいなというのは思っているんですけど。とにかく人口が増えることを望みます。
- 市長より アクティブですけど、狭いかどうかちょっとわかりませんが、あの間隔、空気感がいいのかなと、私もちらっと今の状況では思っていたんですが、あれば例えば教室のように普通の机に代わって、和気あいあいとやるにしても、雰囲気学校に近くなっちゃうと、またそれはそれで環境が変わって、やっぱり学校だ、となっちゃうと来なくなっちゃう可能性もあるもんですから。ただああいう狭さも、密ではいかなのですけれども、本来は。でも先生方も本当に友達感覚で気さくに接してみえたもんですから、あれはあれでよいのかなと思って、きのう見てまいりました。あまり増えるのでしたら本当に考えないと、ちょっと入りきれないもんですからね。そんなことは考えてまいりたいと思います。
- 学校教育課長より ありがとうございます。鈴木委員、何かありますか。最後。

- 鈴木委員より アクティブとは全然関係ないんですが、行事ごとで、今年度はコロナのために中学校の学校祭のときに、給食は出たんですよね。違いました？お弁当持ちではなく、給食。私勘違いしてますか。
- 学校教育課長より 弁当じゃないと思います。
- 鈴木委員より やっぱ9月って暑い時期なので子供たちがどういうふうにお弁当、親がお弁当を作ってどういうふう保管しているのかわからなくて心配なので、学校祭、文化祭、予備日といつも3日間はお弁当を作らないといけないんですけども、あれを給食にさせていただくと、親としてはすごい助かるなと思います。また来年度からはコロナが収まってまたお弁当持ちになるかもしれないんですけども。
- 教育長より 中学校によって違ったかもしれんな。
- 鈴木委員より あ、そうなんですか。
- 学校教育課長より そうかもしれないですね。
- 教育長より あれ、平日にやっとなるな。
- 学校教育課長より 全部平日です。
- 教育長より ひよっとしたらバラバラだったかもしれん。
- 鈴木委員より ほかのお母さんたちもやっぱりお弁当じゃないと助かるっていう。
- 教育長より 夏になって弁当持ちのときもありますけれど、そういうときはエアコンの効いた部屋にね、ずっと入れて、普通のところにはやってないようにしてましてくれどね。ま、すぐに傷んでまうわね、あれね。
- 学校教育課長より おっしゃる通りで、本当に給食、せっかく弁当を持ってきてもらって、そんなになったら大変なことになってしまうんですけど、いま教育長さんが言われたとおり、もしその時期お弁当であれば、もちろん給食室の冷蔵庫にあれだけの数を保管することはできませんので、北中学校でもできないので。おそらく温度管理をきちんとできるようにエアコンの部屋で管理しているんだと思います。もちろんご迷惑を保護者の方にかかるようなことはないと思うんですけど。はい、ありがとうございました。ではもし意見がなければ意見交換を閉じさせてもらってよろしいでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

.....○.....

7. その他

- 学校教育課長より それでは全体を通して何かその他ございませんか。よろしいでしょうか。

.....○.....

閉会

- 学校教育課長より それでは、令和2年度弥富市総合教育会議のほう、終了させていただきます。どうもありがとうございました。

.....○.....